2014年度 環境委員会移動例会

株式会社ヤクルト本社 湘南化粧品工場視察報告

環境委員会　佐藤 允彦
（株式会社MORESCO）

視 察 日 ： 2015年2月6日（金） 13：30～16：00
視察場所 ： 株式会社ヤクルト本社　湘南化粧品工場
参 加 者 ： 9名（敬称略）
小泉達則　（キヤノンアネルバ㈱）
山邊俊輔　（㈱アルバック）
北﨑正樹　（アルバックテクノ㈱）
飯田義隆　（㈱シンクロン）
三好　慶　（㈱荏原製作所）
西山寛之　（日本電子㈱）
佐藤允彦　（㈱MORESCO）
佐々木正巳（日本真空工業会事務局）
吉田裕彦　（日本真空工業会事務局）

環境委員会では2014年度の移動例会として㈱ヤクルト本社 湘南化粧品工場を見学させて頂きました。湘南化粧品工場はヤクルトの中で唯一化粧品を製造している工場になり、藤沢駅から徒歩15分程度の所にあります。工場見学は会社案内から始まり、肌チェック、工場生産ラインの見学、そして最後には実際に化粧品に触れてみる体験までありました。工場見学コース内のフロア・通路は異なるアロマの香りで包まれており、癒されながら工場見学ができました。

ヤクルトと言えば乳酸飲料「ヤクルト400」などの商品名の次にCMで耳にすることがある「乳酸菌シロタ株」を思い出される方もおられると思います。この「乳酸菌シロタ株」とはヤクルト創業者である代田稔医学博士の名前から由来している事を今回の工場見学で初めて知りました。代田博士は1930年（昭和5年）に乳酸菌が腸の中の悪い菌を抑えている事を発見され、乳酸菌が腸まで届くように強化培養し、酸性環境下でも生き残れる乳酸菌を選抜されました。これが「乳酸菌シロタ株」なのです。ヤクルトでは腸に良い働きをするものは肌にも良いはずとの発想で研究を積み重ねられ、1955年（昭和30年）に乳酸菌の発酵エキスが皮膚に対して効果があることを発見されました。そして、1961年（昭和36年）に藤沢で化粧品の製造を開始されました。乳酸菌から作られる発酵エキス（ホエイに似た成分）は保湿効果、抗酸化性、pHコントロールに優れていることからヤクルトのさまざまな化粧品に配合しているとのことでした。また、最近の化粧品に配合されることが多いヒアルロン酸もヤクルトでは自社生産しているとのことでした。化粧品メーカが原料のヒアルロン酸から製造していることは珍しく、ヤクルトの化粧品はヒアルロン酸をたっぷり配合できることが強みとのことでした。ヒアルロン酸は乳酸菌の代謝物から製造できる成分であり、ヤクルトの乳酸菌の研究が活かされていると感じました。

製品説明風景

外箱内の取扱説明

次に製品の充填ラインを見学させて頂きました。充填ラインの床、壁の一部が「ガーネット色」であることにびっくりしました。そこに梱包まで行える充填ラインが1ライン設置されていました。工場内は非常に清潔であり、ガーネット色の床も天井の照明が反射していました。工場では商品へのゴミ・ホコリの混入については細心の注意が払われており、充填ラインの充填部分と梱包部分は商品が搬送される部分以外は硝子で完全に区切られていました。各部屋の気圧には差があり、充填ラインにゴミが入らない様な工夫もされていました。充填作業は朝10時から午後3時までであり、製造後は毎日2時間掛けてラインを分解洗浄し、殺菌処理するとのことでした。工場での環境への取り組みとしては照明のLED化、屋上緑地、紙の削減として取扱説明書の廃止などを実施されているとのことでした。工場見学後に購入した商品には取扱説明書が入っておらず、化粧箱の内部に使用方法などが記載されていました。

最後にダブル洗顔の体験がありました。ファンデーションを付けた手の甲にクレンジング、泡洗顔、保湿ケアの一通りを丁寧な解説と共に実施するものでした。体験をするまでは洗顔なんて、どんな方法でも大差はないと考えていました。しかし、ダブル洗顔後のほぼ全員の手の甲は白く透明感が出ており、ダブル洗顔の効果をまざまざと見せつけられました。機械洗浄などでも油汚れには油性の洗浄剤、水の汚れには水溶性の洗浄剤などと使い分けるにもかかわらず、洗顔だけは泡洗顔のみで対応してきたこれまでが悔やまれました。

末筆になりますが、㈱ヤクルト本社 湘南化粧品工場の見学に際して親切丁寧なご対応を頂きましたガイドさんにお礼申し上げます。ありがとうございます。

集合写真